

令和4年度



山梨県ふるさと納税充当事業成果報告書

分野1 ふるさとの水を育む森林保全に関する取り組み

◆県民緑化まつり事業

緑や森林に対する関心が高まる中で、緑をつくり・緑を育て・緑を守る意識を啓発するとともに、県民参加による緑づくりを行うことにより、うるおいと安らぎのある緑豊かな県土づくりを目指すため本県では「県民緑化まつり」を毎年開催しています。



令和4年度は、令和4年5月14日(土)、鳴沢村民体育館において、「令和4年度県民緑化まつり」として、記念式典を開催し、鳴沢村生き生き広場と鳴沢村道(II-1号線)沿線にて記念植樹を実施しました。行事には延べ168名が参加し、フジザクラ3本、イロハモミジ130本を植樹しました。

◆松くい虫等総合対策事業

本県の観光地や景勝地等の景観を構成する大切な存在の一つであるアカマツ。このアカマツが枯れる原因となるマツノザイセンチュウの侵入、増殖を防ぐため、マツの幹に薬剤を注入(樹幹注入)し、松くい虫の被害を未然に防ぐための対策を行っています。



令和4年度の樹幹注入による予防事業は、昇仙峡(甲府市・甲斐市)、万力公園(山梨市)、塩の山(甲州市)、諏訪の森(富士吉田市)、剣丸尾(富士吉田市・富士河口湖町)において、延べ1,543本のアカマツを対象に実施しました。

◆山梨の自然が育む水の魅力と育水の啓発事業

やまなし「水」ブランド戦略に基づき、健全な水循環を守り育てる「育水」を推進するため、環境教育イベントを開催しました。

また、やまなし「水」ブランドの認知向上や意識の醸成を促すポスターを制作し、YouTubeやInstagramなどのSNS、イベントなど複数の広報媒体を活用した情報発信を行い、山梨県の豊かで良質な「水」の魅力を全国にPRしました。



◆種苗林木育種事業



一粒の種子から芽生えた小さな苗木がやがて大きな木となり森が形づくられます。山梨の豊かな森の風景を未来に残し、また森林資源を絶え間なく生産する場として森を活用していくために、種子は欠くことのできない基本的存在です。

本県では、「小淵沢」（北杜市）、「切久保」（南部町）、「富士山」（富士吉田市）など6ヶ所に県が保有する採種園（優良な種子を採取する場所）のほか県内各地から採取した種子を、県内の苗木生産者の方へ供給しています。令和4年度はこの事業により、これら採種園の管理（下草刈り10.9haほか）や種子の採取（90.5kg）などを行いました。

◆自然公園美化推進事業

本県の山岳観光地である南アルプス地域（国立公園・県立自然公園）、八ヶ岳地域（国定公園）、秩父多摩甲斐地域（国立公園）を清浄な環境に保ち、自然景観を保護するため、自然公園内の登山道等の清掃及び整備活動、除草活動等に対して助成しました。



◆ニホンジカによる農林業被害等の防止



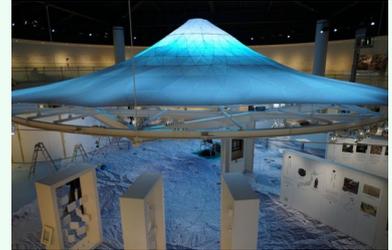
増加または生息域を拡大しているニホンジカについては、第二種特定鳥獣管理計画に基づき、適正な個体数調整により、農林業被害や生態系への影響を軽減するため、管理捕獲を実施しました。

分野 2

富士山の保全、環境美化に関する取り組み

◆富士山世界遺産センター運営事業

富士山の顕著な普遍的価値の普及啓発及び保存管理の拠点である富士山世界遺産センターにおいて、企画展の開催、教育旅行の受入、富士山の総合学術調査研究の実施及び発表等を行い、世界遺産富士山の後世への継承に向けた取り組みが進みました。



分野 3

ふるさとの青少年育成に関する取り組み

◆若者海外留学体験人材育成事業費（大村智人材育成基金事業）

令和4年度は、国際的な視野と高度な知識・技能を持った人材の育成を図るため、大学生1名に対し、アメリカへの留学を支援しました。



◆若手研究者奨励事業費（大村智人材育成基金事業）

本県の産業振興や地域活性化を担う次代の優れた研究者の持続的な育成を図るため、自然科学分野10名の若手研究者の研究を支援しました。



◆産業技術短期大学校等就学サポート事業

生活が困窮し経済的な不安を抱える学生も安心して職業能力開発施設で学び続けることができるように創設された給付型奨学金制度に基づき、経済的不安を抱える学生に就学給付金を支給しました。

○支給実績

令和4年度：28人（支給額：7,830,600円）

◆山梨県立大学施設整備費補助金

令和4年度は、山梨県立大学池田キャンパス本館及び3号館既設空調設備改修工事を実施し、学生や利用者が快適に過ごせる環境を整備しました。



◆ハヶ岳少年自然の家の運営

県立ハヶ岳少年自然の家は、恵まれた自然の中で少年の豊かな情操を養うとともに、集団宿泊生活を通して自律、協同、友愛及び奉仕の尊さを体験的に学習させ、心身ともにたくましい少年を育成することを目的に設置された青少年教育施設です。



施設では、集団宿泊体験をはじめ、冒険ハイクや野外炊事、クラフト体験等、自然体験・生活体験・交流体験を効果的に実施し、延べ28,000人を超える方にご利用いただきました。

◆県立科学館の運営

県立科学館は、青少年をはじめとする県民の科学に対する関心と理解を深め、豊かな感性と創造性を育み、教育及び文化の発展に寄与するために設置された施設です。

施設では、サイエンスショーやプラネタリウムの上映のほか、科学を楽しみながら学ぶことのできる様々なイベントを行い、14万人を超える方にご利用いただきました。

分野4

ふるさとの福祉向上に関する取り組み

◆やまなし子育て応援事業費補助金

年収約640万円相当未満の世帯の第2子以降の保育料について、3歳になるまでの間、保育料を無料化し、子育て世帯の経済的負担軽減を図りました。

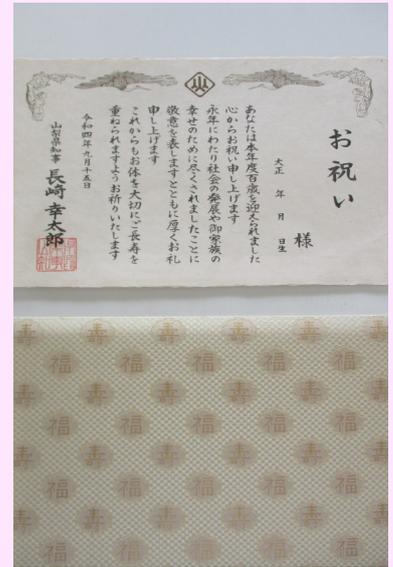
また、仕事と子育ての両立を支援するため、年収約640万円相当未満で対象となる世帯約35世帯について、第2子以降が3歳になるまでの間、障害児通所支援事業利用に係る費用を無料化し、子育て世帯の経済的負担軽減を図りました。（障害児施設給付費）

◆百歳長寿褒状贈呈事業

敬老思想の高揚を図るため、県内にお住まいで新たに100歳を迎えられるお年寄りと県内最高齢者に対し、例年、老人週間に併せて知事の褒状及び褒状入れを贈呈しています。

褒状は手漉き和紙、褒状入れは郡内織物と、贈呈品には県産品を使用しています。

令和4年度は、437人のお年寄りに褒状を贈呈し、ご長寿をお祝いすることができました。



◆産前産後ケアセンター利用費補助事業

令和4年度は、安心して利用していただけるよう新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、延べ350組のお母さんとそのお子さんに、宿泊型産後ケアをご利用いただきました。



利用者へのアンケート調査でも、非常に高い満足度をいただいております。多くのお母さん方の子育てに対する不安軽減に役立っています。

◆産休・育休明け保育推進事業費補助金（山梨県保育所等特別保育事業推進費補助金）

保育の質の向上、保護者が安心して子どもを預けることができる保育環境の整備のため、1歳児を担当する保育士を、配置基準を超えて配置し、手厚い保育を実施する保育所等に対して支援を行いました。

当該事業の実施により、保護者の産休・育休期間が終了した乳幼児の円滑な保育所入所を促進することで、地域社会の要望に即応した保育体制を確立し、児童福祉の向上を図りました。

【保育士配置基準】

対象児	子どもの数	保育士の数
乳児(0歳児)	3	1
1歳児	6	1
2歳児	6	1
3歳児	20	1
4歳以上児	30	1

⇒

子どもの数	保育士の数
3	1
4.5	1
6	1
20	1
30	1

◆工業系高校生基幹産業担い手育成事業

(事業の趣旨)

工業系高校が地域産業界、関係機関と連携した教育活動を展開することにより、高い技術・技能を身に付け、将来の本県基幹産業を支えていく人材を育成する事業です。



(事業の内容)

- ・企業実習（短期企業実習・先端企業実習・長期企業実習）
- ・企業技術者等による実践的授業
- ・基幹産業理解授業
- ・高等教育機関等との連携

(目標値および成果)

①工業系高校生の技能検定等国家資格取得の延べ人数割合 70%

令和4年度：57.4%（前年比2.6%アップ）

②工業系高校生の県内企業就職内定率 90%

令和4年度：85.6%（前年比0.9%アップ）

③関係機関で技術研修を受ける工業系高校生の割合 17.6%

令和4年度：11.0%（前年比1.5%アップ）



本事業の実施において、需用費・報償費に活用されました。コロナ禍による実施人数の制限や実施計画変更などがあり、難しい状況での活動ではありましたが、どの目標値も、前年度の数値を上回ることができました。

◆自ら学ぶ学校図書館活用事業

(事業の概要)

高等学校学習指導要領に示されている「生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動」の充実に資するため、学校図書館に学校図書館情報管理電算システムを導入し、各校の図書館情報管理（蔵書管理）と高等学校間の相互蔵書検索及び貸借を行う事業です。

また、学校図書館ガイドラインに示された学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の充実に資することによって授業での活用時数を増やし、学校の教育課程の展開に寄与します。

(事業の成果)

全国的には、各校の図書館が独立したシステム（スタンドアロン型）を採用している自治体も多い中、本県では県立高等学校及びろう学校の図書データの共有によって学校間における相互貸借が可能のため、生徒の調べ学習の幅が拡大し、知的興味の喚起につながっています。

また、学校間での同種図書の購入に係る経費削減が見込まれ、各学校の特色や生徒の実態に応じた図書の購入、学校図書館の充実につながっています。

(実績)

県立高等学校間の相互貸借による貸出総数

令和4年度 1, 634冊（昨年度比 + 112冊）



クラウドファンディング

◆富士山麓の不法投棄廃棄物撤去作業

(本事業の内容)

・富士山麓の環境美化のため、NPO等が主体となり、不法投棄により長時間放置されている産業廃棄物の撤去活動を支援する事業です。

(R4年度の事業成果)

・認定特定非営利活動法人富士山クラブが主体となり、5月～12月までに、計6回撤去活動を実施しました。

・ボランティア計177人が参加、徹底的な分別・撤去を実施し、

6,250kgの廃棄物を処理しました。

・上記事業を実施したことで、不法投棄の未然防止の普及・啓発が図れました。



◆ジュニア防災マスター育成事業

・やまなし防災ガイドブックの作成



子どもの頃から防災に関心を持ち、防災に関する知識や意識向上を図ることを目的に、小中学生向け防災冊子「やまなし防災ガイドブック」を作成しました。冊子は山梨県の地理的特徴を踏まえながら、県内で起こりうる災害について紹介しています。また、災害から命を守る方法や避難するときのポイントを詳しく学ぶことができる内容としています。

・ジュニア防災マスター育成事業のための防災教室開催

やまなし防災ガイドブックを使用した講義のほか、体験学習をベースとした防災教室を令和5年2月に開催し、累計40名を「ジュニア防災マスター」に認定しました。



◆人と動物の共生社会推進事業

・ミルクボランティア

県に搬入される子猫の多くは、健康面、体力面で弱々しく、ミルクや排泄の解除が必要なため、新しい飼い主さんに直ちに譲渡することは困難です。



譲渡できる状態になるまで子猫の育成をお願いするミルクボランティア事業を実施し、活動支援として必要なミルク、ペットシーツ、哺乳器等の消耗品を支給しています。個人46名、団体3団体の登録をいただき、213匹の育成を委託し、172匹の譲渡へとつなげることができました。

・不妊・去勢手術助成制度補助金



県に搬入される猫のほとんどが、飼い主のいない猫から生まれた子猫です。また、飼い主のいない猫の無秩序な繁殖は、地域におけるふん尿や鳴き声など、環境問題にも関係しています。これらの問題への対策として、県では以前より、市町村が実施している飼い主のいない猫への不妊・去勢

手術の助成制度に対する補助金交付を行ってきました。

令和4年度は致死処分の更なる減少を目指し、飼い主の有無を問わず全ての猫を対象とするとともに、補助金の上限を引き上げる等大幅に内容を拡充して実施し、3299匹の不妊手術、2988匹の去勢手術に活用されました。

◆パラスポーツ用具整備プロジェクト

- ・山梨県障害者スポーツ協会が行うスポーツ交流教室や指導者派遣時等に使用するパラスポーツ用具の整備に対し、助成しました。
- ・スポーツ用車椅子3台とポッチャセット8セットを購入しました。
- ・パラスポーツの普及に向け、県主催のパラスポーツイベントや指導員養成のための講習会等で購入した用具を活用しました。
- ・今後、用具の貸し出し事業やパラスポーツ体験会、指導員派遣等で活用していきます。

(R4年度実績：用具貸出件数96件、体験会37件、指導員派遣25件)



◆富士山の独自で豊かな自然を次世代へ～外来植物から富士山を守りたい!～

富士山の豊かな自然を保全するため、御庭や五合目など計4箇所に防除マットを設置し、足裏に付着した外来植物の種子を富士山へ持ち込ませないための対策を実施しました。

(外来植物の除去や活動の中心となるボランティアの育成のため、富士山科学研究所及び富士山五合目駐車場付近でボランティア指導講習会の開催を予定していましたが、開催日に荒天だったため、ハイジの村クララ館駐車場にてボランティア指導講習会を開催しました。)



◆ゲーム・ネット依存対策推進事業



厚生労働省によると、ネット依存が疑われる中高生の推計は、2012年の52万人から2017年には93万人へと急増しています。

生活必需品であるデジタル機器ですが、のめり込みを防ぐための対策として、ゲーム・ネット以外への興味、現実世界での充実感の獲得を目的とした中学生対象の「デジタルデトックスキャンプ」を開催しました。

参加者へのアンケート調査では、キャンプ参加前後で、ゲームやネット依存の傾向に改善がみられ、ゲーム・ネット依存対策に資する事業であることが示されました。

◆山梨県立日川高等学校グラウンドの人工芝生化事業



山梨県立日川高等学校は120年を超える歴史を重ねてきた山梨県でも有数の伝統校です。「文武両道」を教育方針に持ち、ラグビーをはじめ部活動が盛んに行われています。しかし、ここ最近は日常的に人工芝グラウンドで練習する私立学校等に苦戦し、以前のように上位の成績を残せない状況にあります。そこで、普段から生徒が大会に近い環境で練習でき、大会で遺憾なく実力を発揮し、私学をはじめ強豪校に打ち勝つため、土のグラウンドを人工芝生化することを計画しました。

令和4年度は、県、学校、同窓会が一体となり、人工芝生化に必要な目標金額1億3,000万円の達成を目指して寄附募集活動を行ってまいりました。令和5年度も引き続きご協力をお願いいたします。

・令和5年度寄附募集ページ：

https://www.satofull.jp/projects/business_detail.php?crowdfunding_id=273

◆愛宕山こどもの国再整備事業

愛宕山こどもの国については、令和3年8月から行われてきました再整備工事が完了し、令和5年4月26日より供用が開始され、多くの子ども達にご利用いただいております。



◆農作物盗難防止対策事業

皆様の温かい支援を受け、農作物の盗難防止を目的としたパトロール実施および防犯機器購入への補助事業を実施することが出来ました。

事業開始以降、盗難発件数等が大きく減少し、事業を実施した効果が見られました。

(実施内容)

・モモやブドウ等の収穫期に、夜間から早朝の時間帯における警備会社による防犯パトロールを実施しました。

・防犯カメラ、センサーライト・サイレン等の防犯機器の購入費用の補助を実施し、合計約4,500台が圃場に設置されました。



◆山梨県文化財保存事業

山梨内に数多く残されている神社仏閣、史跡、名勝などに代表される多種多様な文化財は、山梨県の歴史・文化の奥深さや自然の豊かさを私たちに伝えてくれる大切な遺産であるとともに、国内外から多くの



観光客の皆様を惹きつける大切な観光資源でもあります。これらの文化財を末永く保存し、活用を推進するためには保存修理を継続的に行うことが必要です。山梨県では、県内の各市町村や所有者が実施する文化財の保存修理事業に対する経費補助を行いました。

◆気づいてつながろう山梨コネクトヤングケアラー（ヤングケアラー支援プロジェクト）

本プロジェクトでは、ヤングケアラーとその家族に対する寄り添った支援を展開していくため、認知度向上、本人への支援の充実、支援者の人材育成、包括的な仕組みの構築などを大きな柱として、様々な取り組みを実施しました。

（認知度向上の取り組み）

- ・2023山梨コネクトヤングケアラーLIVEの開催

2月に元ヤングケアラーである著名人などをゲストに招き、「今私たちにできることをテーマ」に、参加者もゲストと一緒に考えるイベントを開催し、3月末まで当日の動画をYouTubeで公開し、広く周知を図りました。



- ・多様なメディアを活用したヤングケアラーへの正しい理解のための動画制作

YouTube、Tiktok、テレビCMを活用し、ヤングケアラーの担うケア、ヤングケアラーとしての経験、著名人によるヤングケアラーへの理解を呼びかけるコメントなどの動画を制作し、幅広い世代への訴求を毎年行いました。

（本人支援の充実）

- ・ピアサポート「やまなしヤングケアラーズクラブ」の開催

ヤングケアラー本人がほっとできる機会やヤングケアラー同士で交流できる機会として、3月にピアサポートを2回開催しました。

- ・SNS相談窓口「山梨県ヤングケアラーチャンネル」の開設

ヤングケアラーのみならず、周囲の友人や支援者などが気軽にSNSで相談できるLINE窓口を、3月に開設しました。

(支援者の人材育成)

・ヤングケアラー・コーディネーター養成講座の開催

ヤングケアラー支援の中心的な役割を果たす人材を育成するための講座を2月から3月にかけて全6回開催し、10名のコーディネーターを養成しました。

・ヤングケアラー支援者研修の開催

専門職の支援スキルの向上と多職種連携を推進するため、3月に6回研修会を開催し、延べ164名が受講しました。

(包括的な仕組みの構築)

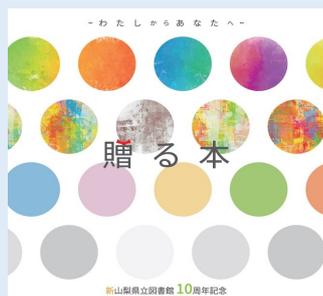
・ヤングケアラー支援計画の策定

本県のヤングケアラー支援における方向性を具体的に示した計画を、12月に策定しました。本計画をもとに、今後も、引き続きヤングケアラーとその家族へのより沿った支援を展開してまいります。



◆新県立図書館10周年記念事業

県立図書館が、甲府駅北口に移転・開館してから10年が経ちました。図書館を利用してくださる方々に日頃の感謝の気持ちを伝えようと、10周年記念事業を行いました。



記念事業では、11月13日に笛吹市出身の直木賞作家・辻村深月氏を招いて、阿刀田高名誉館長、金田一秀穂館長とのトークショーを開催しました。また、3月には、県ゆかりの著名人からメッセージをお寄せいただき、冊子「贈る本 -わたしからあなたへ-」を発行しました。

その他の事業

◆東京ガールズコレクション開催事業

観光客数に占める割合が少ない「20歳～30代の女性」に対し、山梨の観光資源や地場産品を知ってもらうため、訪れてもらうため、東京ガールズコレクションがプロデュースした「TGC FES YAMANASHI 2022」を令和4年10月22日（土）に開催しました。

開催テーマ：「Treasure Box（トレジャーボックス）」の下、TGC史上初となる世界文化遺産：富士山をバックにしたスペシャルなロケーションを舞台に、アーティストライブやファッションショーといったTGCならではのコンテンツにより、フルーツ、ワイン、名水、そして長い歴史に育まれた匠の技が織り成すジュエリーやテキスタイルなど、宝箱に詰め込まれた溢れんばかりの魅力を全国に発信しました。

（成果）

- ① 来場者数：延べ約5,750名
- ② ライブ配信総視聴者数：延べ約545,000名
- ③ 経済波及効果：1.22億円
- ④ 広告換算額：8.5億円



成果報告書のお問い合わせ先について

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

山梨県総務部資産活用課 資産活用・ふるさと納税推進担当

TEL：055-223-1314（直通）

E-Mail：shisan@pref.yamanashi.lg.jp

URL：https://www.pref.yamanashi.jp/furusato-tax/